

新発見の有田皿山代官の記録から

講師 有田町歴史民俗資料館東館学芸員 おざき尾崎 ようこ葉子 さん

・本年度第1回の「郷土研究講座」は、「新発見の有田皿山代官の記録から」というテーマで有田町歴史民俗資料館東館の学芸員である尾崎葉子さんにお話をお願いしました。



今回の講演の基となる「記録」は昨年、有田皿山代官をつとめた成富作兵衛のご子孫のお宅に保管されていた古文書を当館が調査しているときに発見され、それを尾崎さんに解説していただきました。

1. 皿山代官の職務について

代官といえば、「水戸黄門」に登場するような悪代官のイメージがあるが、皿山代官の職務は佐賀藩の重要な産品である焼き物の保護や統制を行い、税の徴収や藩の施策の伝達など行政官としての役割が主体でした。

2. 成富作兵衛の記録について

成富作兵衛は、文化2年(1805)7月から同4年(1807)9月まで約2年間代官を務めましたが、今回発見された「記録」には同3年2月から翌年4月までの事柄が記載されています。

有田に関する記録には「皿山代官旧記覚書」がありますが、文政11年(1828)の台風によって発生した大火のため公文書がほとんど焼失しましたので、今回発見された記録は、この文政大火以前の有田を知る上で大変貴重な資料であり、有田の人にとっても重要な資料の発見になりました。

3. 成富作兵衛が記録した事柄

記録からは焼き物製作の中心であった有田と積み出し港であった伊万里の街のにぎわいの様子がうかがえ、焼き物を求めて伊万里を訪れた紀州(和歌山県)や出雲(島根県)、越中(富山県)などの商人

や船の入港届などが記載されています。当時、伊万里には30人近い商人が100日近く滞在していたことや千石船の入港など、伊万里の繁栄ぶりを知ることができます。

また、商人の動きばかりでなく、鍋島家の法事についての伝達や、医者診療の様子、盗賊が盗んだ物を質入したことなど、町の様子が記録されています。

さらに、九代酒井田柿右衛門への茶碗や皿の注文や辻喜三郎(八代辻喜平次)への香炉の注文など、佐賀藩と黒元との関係を示す記録も残されています。

4 おわりに

この記録そのものは、備忘録としての要素が強く、欲を言えば、自身の感想などを盛り込んでいればもう少し人間臭さがうかがえてもっと面白いものになっていたのではないのでしょうか。

まもなく焼き物創業400年を迎える有田にとって、成富作兵衛や藩の役人、各地の商人など、焼き物発展の歴史にかかわった先人たちの功績に改めていくことが現在有田にかかわる私たちに課せられた使命ではないのでしょうか。

(文責：佐賀県立図書館)

